

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	幸せをもたらす訪問栄養食事指導 ～病院管理栄養士だから訪問する！医療と介護の橋渡し～
演者名	町田 真実 1) 古屋 聡 2)
所属	1) 山梨市立牧丘病院 栄養課 2) 山梨市立牧丘病院 整形外科

目的：山梨市立牧丘病院（以下：当院）では、医師をはじめ薬剤師、看護師、理学療法士など多職種がチームとなって、患者とその家族を支えていける在宅医療に取り組んでいる。訪問栄養食事指導は現在 6 年目を迎え、摂食嚥下障害やがん患者などに多く関わってきた。当院では食べることに関わる職種は『幸せをもたらす職種』と言われている。患者にとって『食べることは生きること』である。そして、『食べること』は何よりも幸せを感じられるものであり、管理栄養士は食べる幸せをサポートできる職種の一員である。

実践内容：在宅と介護施設を行き来している摂食嚥下障害のある患者に対して病院管理栄養士がどのように患者・家族とかわかり、多職種や介護施設にアプローチし連携したのか当院の訪問栄養食事指導の取り組みについて検証する。

実践効果：病院管理栄養士が関わることにより在宅でも食形態の評価や変更が可能となり、患者の希望にそった安全な食事を多職種とともに提案することができた。また介護施設への訪問や情報提供を直接行うことで信頼関係を築くことができ、介護施設でも患者の希望を取り入れた食事を安全に楽しむことができるようになった。

考察：在宅でも介護施設でも患者の食べる楽しみに対して挑戦し対応していける姿勢をとれるのは、主治医との信頼関係が築けているからであり多職種とも迅速に連携できる環境にあるからである。また、病院管理栄養士が関わることにより家族や介護施設から食事以外の疑問や不安を主治医や関係職種に相談・伝達することもできる。在宅では職種を超えた関わり合いは重要なことであり、管理栄養士がその役割を担うことにより医療と介護を結ぶ橋渡しができ、患者や家族にとってとても有用である。